

## 横浜

50周年記念特集 ◇各地域協議会のあゆみ◇

## 青少年指導員制度50周年を迎えて

横浜市青少年指導員は昭和43年度の神奈川県青少年指導員制度設立にともない、昭和44年度から活動を始め、昭和48年度に指導員活動の効果的推進と指導員相互の連絡調整を目的として、横浜市青少年指導員連絡協議会が発足しました。



あいちゃん

&lt;あいちゃんマーク&gt;

また、これまでは「あいちゃんマーク」が横浜市青少年指導員のシンボルマークでしたが、制度設立50周年を契機として、「青少年を見守る社会をサポートする横浜市青少年指導員のシンボルマーク」をテーマに、「あいちゃんマーク」にかわるシンボルマークを募集しました。平成30年度からは新たなシンボルマークとともに活動していきます。

平成30年度には横浜市青少年指導員が活動を開始して50年を迎えます。

現在、横浜市青少年指導員連絡協議会では、神奈川県青少年指導員制度設立50周年を記念して、18区の青少年指導員の代表とともに、50周年記念誌の作成に取り組んでいます。



&lt;新シンボルマーク&gt;

昭和44年度の活動開始当初、横浜市の青少年指導員は14区で約1,700人。学校、地域の方々とともに青少年の育成活動に取り組んでいました。

それから約50年が経ち、横浜市は約370万人が住む大都市へと発展しましたが、その一方で、都市化による本物の自然に触れる機会の減少、近隣付き合いの希薄化、親子関係の変化など、青少年を取り巻く環境も大きく変化しました。

こうした変化の中で、横浜市の青少年指導員は、その時々々の青少年のニーズや青少年に伝えるべきことを模索しながら、それぞれの地域で多様な活動を展開してきました。

また、深夜一斉パトロール活動やキャンペーン活動、成人の日を祝うつどいの運営協力など、横浜市をあげての活動も、多くの青少年指導員の支えにより、10年以上にわたって受け継がれてきました。

現在、青少年指導員は18区で約2,700人。先人たちの御苦勞と成果の賜物ではありますが、地域における青少年の健全育成の中心的な役割を担う存在になっています。



&lt;成人の日を祝うつどいの運営協力&gt;



&lt;深夜一斉パトロール活動&gt;

50年という長い年月のなかで多くのことが変化しましたが、次代を担う青少年が健やかに、そしてのびのびと育つことは、保護者のみならず社会全体の願いであるということはいつの時代も変わりません。

横浜市青少年指導員は、地域に暮らす大人の一人として、青少年を育むことのできる地域づくりに取り組み、青少年が将来への希望を抱いて成長していけるよう、今後も様々な活動を続けてまいります。